

公開研究会

輸送用バイオ燃料利用の持続可能性と社会的責任

～ ブラジル報告を中心に ～

2007 年 5 月 15 日（火）14:00～17:30 JICA 地球ひろば（3F 講堂）

昨今、バイオ燃料導入に関する期待が高まる一方で、その環境や社会への悪影響、食糧等の競合への懸念の声もあがっています。今回は、ブラジルのエタノールを中心としたバイオ燃料の現状と環境面・社会面からの課題と可能性、さらには将来のバイオ燃料の持続可能性、社会的責任を担保するための制度化にむけた課題について情報提供いただきます。また、バイオ燃料需要の高まりにともない深刻化している食糧との競合、不足する土地の問題についても取り上げ、バイオ燃料の持続可能性について参加者の皆様と議論を深めたいと思います。

プログラム

（敬称略）

- 14:05～15:05 **ブラジル・バイオ燃料の現状と展望：環境・社会面からの課題**
福代 孝良 / 外務省在リオデジャネイロ日本国総領事館 専門調査員
- 15:05～15:40 **認証の可能性とその課題～パーム油を例に**
満田 夏花 / （財）地球・人間環境フォーラム 主任研究員
- 15:40～16:15 **バイオ燃料利用拡大による食糧との競合問題**
佐久間 智子 / 「環境・持続社会」研究センター 理事
- 16:15～16:30 休憩 （質問票回収）
- 16:30～17:30 **輸送用バイオ燃料の持続可能性：共同提言**
泊 みゆき / NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク 理事長
会場との質疑応答・ディスカッション

司会：中澤 健一 / FoE Japan

【主催】NPO 法人バイオマス産業社会ネットワーク、国際環境 NGO FoE JAPAN、
財団法人 地球・人間環境フォーラム、日本・ブラジルネットワーク

【協賛】独立行政法人 国際協力機構（JICA）

発表者プロフィール

(敬称略、講演順)

福代 孝良(ふくよ・たかよし)

/ 外務省在リオデジャネイロ日本国総領事館 専門調査員

東京大学林政学研究室博士課程。1996 年より、アマゾン環境保全・貧困撲滅計画、日本ブラジルネットワーク、バイオマス産業社会ネットワーク等々にて、ブラジルの自然保護、バイオマス利用等に関わる。2003 年から 2004 年リオデジャネイロ連邦農科大学留学。2004・2005 年、ブラジルの連邦政府の環境政策・自然保護行政機関である環境・再生可能天然資源庁へ JICA 専門家(環境教育、環境情報・参加型資源管理)として派遣。

満田 夏花(みつた・かな) / (財)地球・人間環境フォーラム 主任研究員

開発途上国における企業の社会的責任、国際金融機関の環境社会配慮、原材料調達のグリーン化等の調査事業に従事。調査研究に根ざした政策提言活動を行うことを目指す。2001～2004 年まで国際協力銀行環境審査室、ODA 事業の環境審査を担当。明治学院大学非常勤講師など。

佐久間 智子(さくま・ともこ) / 「環境・持続社会」研究センター 理事

市民フォーラム 2001 事務局長などを経て、現職。女子栄養大学非常勤講師、明治学院大学平和研究所研究員。主に経済のグローバル化の社会・開発影響に関する調査・研究および発言を行う。『儲かれば、それでいいのか—グローバル化の本質と地域の力』(共著、コモンズ)、『世界の“水”が支配される!—グローバル水企業(ウオーター・バロン)の恐るべき実態』(訳書、作品社)、『世界の水道民営化の実態—新たな公共水道をめざして』(訳書、作品社)など。

泊 みゆき(とまり・みゆき) / NPO法人バイオマス産業社会ネットワーク(BIN) 理事長

日本大学大学院国際関係研究科修了。(株)富士総合研究所で10年以上、環境問題、社会問題のリサーチに携わる。1999 年、バイオマス資源の社会的・生態的に適正な利用促進を目的とする「バイオマス産業社会ネットワーク」を設立、共同代表に就任。2004 年、NPO 法人取得に伴い、理事長に就任。主な著書に、『バイオマス産業社会』(共著、築地書館)、『アマゾンの畑で採れるメルセデス・ベンツ』(共著、築地書館)他。バイオマス情報ヘッドクォーター推進検討委員会委員、バイオマス利活用普及啓発推進事業検討委員会委員他。